

～あふれ出る湧き水と瑠璃色の水辺の町～

針江・霜降



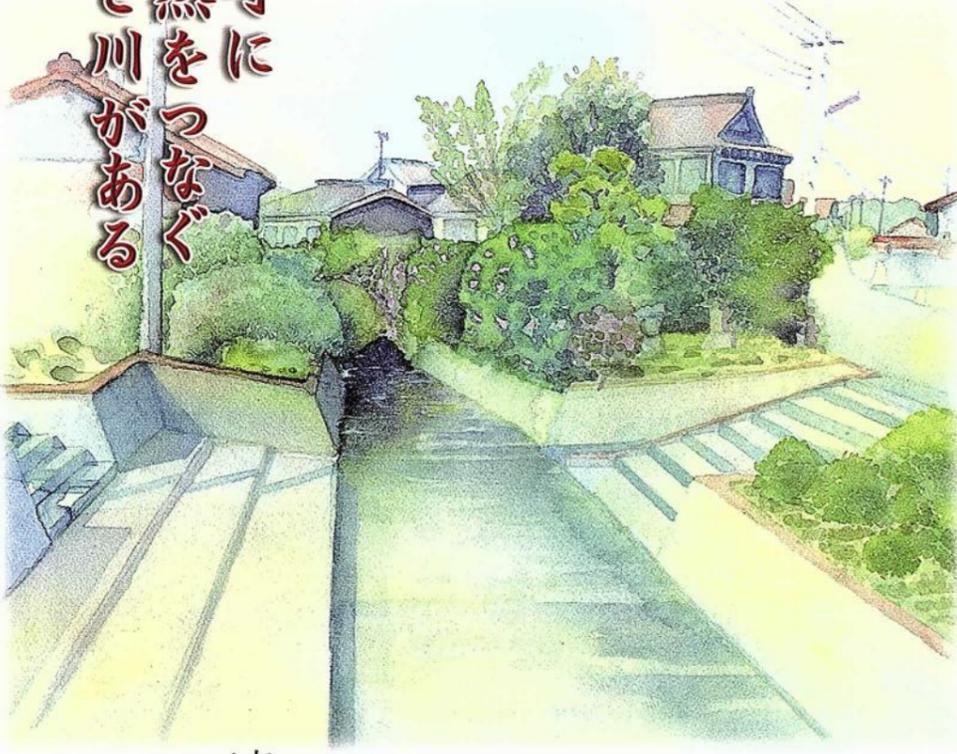
はりっしも
Harishimo vol.22 2026 (令和8年). 2

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会

Message

針江・霜降地域は国の「日本遺産」・「重要文化的景観」の選定を受けています。

湧き水と自然の町に
小さな川をつなぐ
カバタ

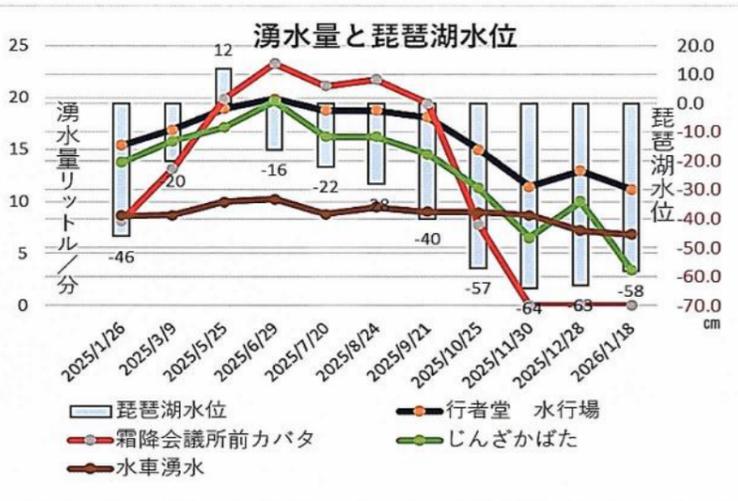


カバタ湧水量調査

「湧水枯渇！水温上昇!!」

■令和6年夏より9か所のカバタの湧水量を調査していますが、昨年秋より湧水量が激減し、ついに11月には3か所で吐水が停止。年が明けて1月末には豊富な湧水量を保ってきた「じんざかばた」の湧水もストップしました。

また、秋から各カバタの水温の上昇が続き、過去最低水温から4.2℃も上昇した箇所も出現。平均1.4℃と安定した水量を保つ「行者堂水行場」の水温も上昇傾向が見られました。夏の少雨や高温、琵琶湖の水位低下が、秋以降の湧水量に影響を及ぼした可能性が考えられます。



●琵琶湖水位(青棒)が夏場から低下(12月中旬に-73cmを記録)

2025年 気象トピック

■2025年の近畿地方は、6月9日に梅雨入りし、6月27日に記録的な早さで梅雨明け。期間は18日間と1951年以降で2番目に短い年となり、7月を待たずに本格的な夏が到来し、夏は全国で記録的な高温を記録しました。
7月の平均気温：28.6℃(平年より3.5℃上昇)、降水量：85.5mm(平年の3割程度)、日照時間：301.5時間(平年の倍近く) *いずれも気象庁データ：今津

はりっしも「水辺景観」原画展を開催しました

昨年11月、重要文化的景観「高島市針江・霜降の水辺景観」選定15周年にあたり、広報「はりっしも」のメインビジュアルを飾ってきた水彩画・ちぎり絵の原画を針江明生会館・霜降会議所にて展示しました。

●カバタ、大川や小池川、桜街道、日吉神社の宝塔・板碑、正傳寺亀の池など、重要文化的景観の構成要素となっている景観や文化財、エリアの四季を描いた原画とともに、解説パネルを作成展示しました。

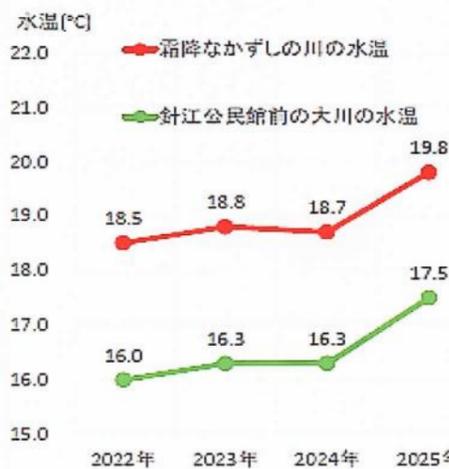
●原画展の解説パネルは、現在、針江公民館前の掲示板と「じんざかばた」、さらに「川新」さんや「かばた館」さんに展示していただき、外部の方々にも水辺景観の一端を紹介しています。



河川水質調査

◆11月の河川水温の経年変化◆

11月測定時の年ごとの水温変化



昨年11月は水温が1℃以上上昇「河川水温上昇!!」
*昨年から各調査河川の水温が高い状態が続いたので今回は水温に注目したデータを紹介します。

■赤線は、「なかずし」河川が、上流から(安曇川沿岸用水の河川水)の影響を全く受けない11月の測定データです。2022年から2024年までの水温はほとんど同じですが、2025年は1℃以上も上昇しています。

また、この「なかずし」河川以外の湧水も流れ込む「針江公民館前」大川の水温(緑線)も全く同じ傾向でした。(ちなみに湧水率が高い他の河川の水温もほぼ同様の傾向でした。)

■この水温上昇の原因は不明ですが、おそらく昨年初夏から初秋にかけて気温が異常に高い状態が続いた影響かもしれません。今まで「湧水の水温は毎年同じでそれほど変化が無い」という認識でしたが、この考えも変える必要があります。

*水温と水質は密接に関係しており、一般的に水温が上昇するとプランクトンや微生物の活動が活発化し、有機物が増加するほか、水中酸素が減少し汚濁が進行しやすくなります。

*河川調査班は、2022年から11箇所の河川水質を2ヶ月毎に調査しています。

*調査項目：気温、水温、透明度、水深、COD(化学的酸素要求量)、電気伝導度(EC)、pH(水素イオン濃度：酸性・アルカリ性)